

特別支援学級1・2組 国語科学習指導案

児童 1年(1名) 2年(1名) 3年(3名)

4年(1名) 5年(2名) 計8名

指導者 藤澤勝利(T1) 小綿幸子(T2) 國久伸子(T3)

1 単元名(題材名) 文をつくろう

2 単元(題材)について

(1) 児童について

本グループは、知的障がい、自閉症・情緒障がいの児童8名である。

読み書きについては、平仮名の読みが数文字だけできる児童や、平仮名を使って簡単な文を書くことができる児童、2年生程度の漢字の読み書きができるものの自分で文を書くことが難しい児童、漢字を入れながら文を書こうとする児童、と一人一人の力の差が大きい。音読についても、読める平仮名が数文字のため音読が難しい児童、一文字ずつの拾い読みの段階の児童、3年生程度の教科書の文を読むことができる児童、と読み書きと同様に力の差が大きい。話すことについては、大勢の前で話したり、感想を発表したりすることが、好きな児童が多い。しかし、スムーズな会話ができる児童は少なく、発音が不明瞭であったり、助詞の使い方があいまいであったりするため、自分の思いをうまく伝えることができないことが多い。

今まで「文をつくろう」を2学級合同で繰り返し学習し、友だちが文を作り、発表をする様子を見ることで、自分で文を作ったり、発表したりすることへの興味や意欲が、児童たちに育ってきている。

(2) 題材について

ぷりずむ学級の国語科の目標は、特別支援学校学習指導要領の「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科」の国語の目標に準じており、「日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それらを表現する能力と態度を育てる。」である。書くことに関する内容は3段階(4)に、「簡単な語句や短い文を平仮名などで書く。」と示されている。また、児童にとって、話をしようとしたり、意思を伝え合おうとしたりする意欲を育てることは大切なことである。

本グループの児童の多くは、発音が不明瞭であったり、なかなか自分から話せなかったりするため、会話で正確に伝えることが難しいことが多い。しかし、そのような児童でも、文字を書き、文章を作ることにより、自分の気持ちを表現し、伝え、理解してもらうことが可能となる。そこで、主語と述語のある短い文を読んだり書いたりすることによって、文字や文を書く力を伸ばし、自己表現することや文章を読解する力を身に付け、文章を書くことや読解の素地を育てたいと考え本題材を設定した。

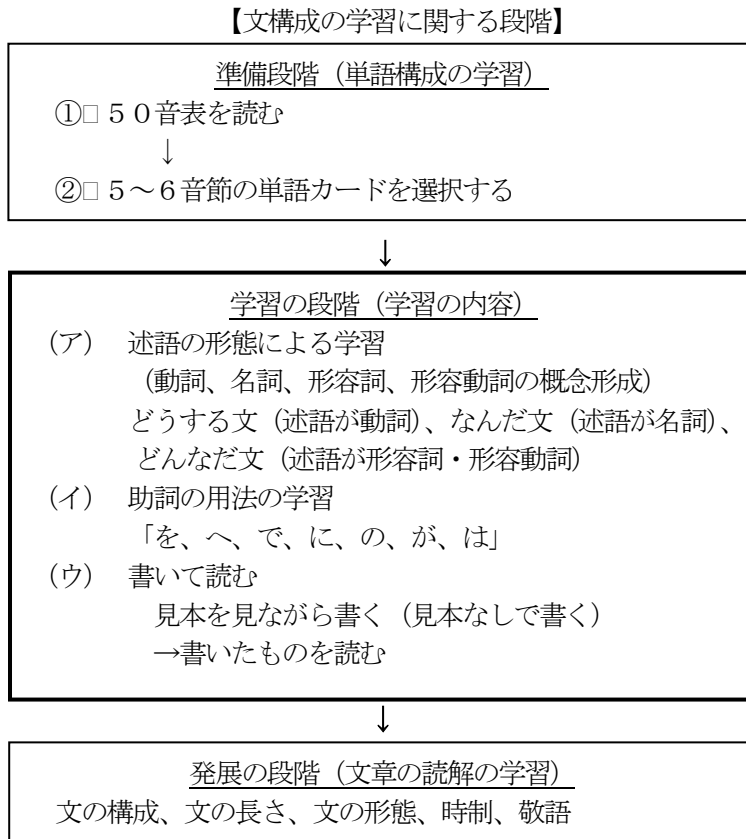
(3) 指導にあたって

本題材では、二語文や三語文の短い文を書いたり、読んだりする活動を通して、文の意識をもつことができるようにし、自分で意欲をもって書くことができるようにしたい。

指導にあたっては、次のように学習活動を工夫し、支援をしていきたい。

- ・最後まで学習に集中できるように、授業の見通しを持つことができるような板書計画を工夫する。
- ・全員が声を出せるように、導入段階で「教室はまちがうところだ」の音読を行う。
- ・児童が興味をもつことができるように、児童が日常的に目にする状況(動作)の絵を準備する。
- ・主語を「あたま」、述語を「あし」、修飾語を「からだ」と表現する。
- ・主語、述語、修飾語などを意識しやすくなるように、色カードを使う。
- ・それぞれの段階に応じた指導を行うために、一人一人の実態に応じたプリントを用意する。
- ・文を読む意欲や相手の話を聞く態度を育てるために、書いた文を発表し合う場を設定する。
- ・文作りや発表の場面では、カードやプリントを交換し合ったり、感想を発表したりしながら、他の児童の考えから刺激を受けることができるように留意する。

3 指導事項の関連と発展



4 単元の目標

観 点	目 標
国語への 関心・意欲・態度	友だちの発表を聞くことができる。 感想を発表することができる。
読む能力	自分の書いた文を発表することができる。
言語についての 知識・理解・技能	平仮名、片仮名、漢字などの知っている文字を書くことができる。 主語と述語などの整った短い文を作ることができる。

5 単元の指導計画（全7時間）

過 程	学習内容(○)と主な学習活動(・)
意識をもつ 見通しを立てる(1)	○前回の「文をつくろう」の学習を思い出す。 ・前回の学習で用いた絵や作った文から、学習内容を思い出す。 ・今回用いる絵や、学習の方法を紹介し、学習への意欲をもつ。
深める(4)	○絵を見て文を作り、発表する。 ・「サッカー」、「料理」などの絵を見て、考えた主語、述語などについて、それぞれ指定の色のカードに記入し、並べてプリントに視写する。 ・視写したプリントを読みながら、発表する。 【①「サッカー」、②「おふろ」、③「料理」(本時)、④「買い物」】
広げる(2)	○教師や友だちの動作を見て文を作り、発表する。 ・友だちや教師の動作を見て、考えた主語、述語などについて、それぞれ指定の色のカードに記入し、並べてプリントに視写する。 ・視写したプリントを読みながら、発表する。 【①教師の動作、②友だちの動作】

6 本時の指導

(1) 目標

「料理」の絵を見て、主語、述語などを考えることができる。

(2) 研究にかかわって

○既習事項を活用する力

ぷりずむ学級の児童は、一回の学習だけで目標を達成することは難しく、同じ題材を何度も繰り返し学習することにより目標に近づくことができる。つまり、ぷりずむ学級の児童にとっての「既習事項の活用」とは、題材や学習の進め方を「繰り返し学習すること」によって、経験を想起し、課題解決に取り組むことと言っても過言ではないと考える。

絵を見て短い文を作る学習は、昨年度より取り組み、今回で4回目の学習となる。「教室はまちがうところだ」の音読から始まり、自分で考えて短い文を作り、友達の発表を聞き、感想を発表するという学習の進め方を変えずに、児童が見通しを持って学習できるようにしている。

○人とかかわる力

ぷりずむ学級では、普段、学級ごとに児童の実態に合わせた学習が中心である。そのため、他の児童の学習内容を意識したり、お互いに刺激し合ったりすることはあまりない。そこで、他の児童とかわり合いながら学習する機会を設定しようと考え、2学級合同で共通の題材で学習することとした。

前回までの学習では、他の児童の真似をし、普段使わない言葉や片仮名、漢字を使おうとしたり、他の児童とは違う言葉を使おうとしたりする児童がいるなど、他の児童を意識して学習する姿が見受けられた。

(3) 児童の実態と個別の目標

児童	児童の実態	目 標	支援の手立て	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名の数文字を書いたり読んだりできる。 具体物を見て、そのものの名前を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おかあさん」、「りょうりする」など、カードに書かれた平仮名を視写することができる。 絵を見ながら、「フライパン」、「料理」などに気がつき、話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知らない平仮名は、教師が手本を書いて提示する。 絵に描かれたものに気付きやすいように、教師がカードに助詞を書き込んだり、絵を指差したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おかあさん」、「りょうりする」など、カードに書かれた平仮名をプリントに視写することができたか。 絵を見ながら、「フライパン」、「料理」などに気が付き、話すことができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> 教師の真似をして、単語を話すことができる。 自分の名前の平仮名を読み、なぞり書きをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵を見て、「おかあさん」、「ごはん」などの単語を話すことができる。 自分の名前の平仮名を読んだり、なぞり書きをしたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の真似をして、単語を話すように、繰り返し声をかける。 ひらがなに興味を引くように、型はめ学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表の際、教師の真似をして、「おかあさん」、「ごはん」などの単語を話すことができたか。 自分の名前をなぞり書きすることができたか。
C	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名、片仮名、1年生の簡単な漢字の読み書きができる。 主語、述語の順番に話したり、文を作ったりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「作る」、「火」、「フライパン」などの漢字や片仮名を使って書くことができる。 主語に「お母さん」を使い、述語に「りょうりする」、「作っている」などを使って文を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに平仮名で書いた場合、漢字や片仮名に直すように促す。 主語、述語などをカードの色を確かめながら教師と一緒に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「作る」、「火」、「フライパン」などの漢字や片仮名をプリントに書くことができたか。 主語に「お母さん」を使い、述語に「料理する」、「作っている」などを使ってプリントに書くことができたか。

D	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の漢字を習得し、文の中で使うことができる。 助詞を間違えることがあるが、一人で三語文を作ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「料理」、「フライパン」などの漢字や片仮名を使って書くことができる。 「で、を」などの助詞を正しく使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに平仮名で書いた場合、漢字や片仮名に直すように促す。 カードに助詞を誤って使っていたら、直すように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「料理」、「フライパン」などの漢字や片仮名をプリントに書くことができたか。 「で、を」などの助詞を正しく使って、プリントに書くことができたか。
E	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の漢字の読み書きができる。 自分の考えを整理して、主語、修飾語、述語の順番に話したり、文を作ったりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「女の人」、「作る」、「フライパン」などの片仮名や漢字を使って書くことができる。 主語に「女の人」を使い、述語に「料理する」、「作っている」などを使って文を作ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに平仮名で書いた場合、漢字や片仮名に直すように促す。 カードの色を確かめながら、主語、述語に気をつけて書くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「女の人」、「作る」、「フライパン」などの片仮名や漢字をプリントに書くことができたか。 主語に「女の人」を使い、述語に「料理する」、「作っている」などを使ってプリントに書くことができたか。
F	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や1年生の簡単な漢字の読み書きができる。 教師が言葉にすると、単語を一人で書き表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お母さん」、「女の人」、「火」などの知っている漢字を書くことができる。 絵を見ながら、「フライパン」、「料理」などに気がつき、話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに平仮名で書いた場合、漢字に直すように促す。 絵に描かれたものに気づきやすいように、カードに助詞を教師が書き込んだり、絵を指差したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「お母さん」、「女の人」、「火」などの漢字を、プリントに書くことができたか。 絵を見ながら、「フライパン」、「料理」などに気がつき、話すことができたか。
G	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や片仮名の一部を読み書きできる。 単語を書こうとするが、誤りが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「フライパン」、「エプロン」などを、片仮名で書くことができる。 「フライパン」、「りょうり」などの単語を正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに平仮名で書いた場合、片仮名に直すように促す。 カードに誤って書いているときは、正しい表記を示し、書き直すように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「フライパン」、「エプロン」などを片仮名でプリントに書くことができたか。 「フライパン」、「りょうり」などの単語をプリントに正しく書くことができたか。
H	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名や片仮名、1年生の簡単な漢字を読み書きできる。 助詞の使い方を間違えることが多いが、文を書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「フライパン」、「エプロン」、「火」などの片仮名や漢字を使って書くことができる。 「で、を」などの助詞を正しく使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> カードに平仮名で書いた場合、漢字や片仮名に直すように促す。 カードに助詞を誤って使っていたら、直すように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「フライパン」、「エプロン」、「火」などを片仮名や漢字でプリントに書くことができたか。 「で、を」などの助詞を正しく使って、プリントに書くことができたか。

(4) 展開

前時の学習	<p>[学習内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おふろ」の絵を見て、文を作る。 <p>[学習活動]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おふろ」の絵を見て、考えた主語、述語などについて、それぞれ指定の色のカードに記入し、並べてプリントに視写する。 視写したプリントを読みながら、発表する。
-------	---

過程	学習内容 (番号) と学習活動 (◎)	指導上の留意点 (・) 教師の役割分担 (T1、T2、T3)																																
見 通 し を も つ 5 分	<p>1 学習の始まりを知る。 ◎始めのあいさつをする。 【座席】</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr><td colspan="8">黒板</td></tr> <tr><td colspan="8">T1</td></tr> </table> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td style="width: 20px;">A</td><td style="width: 20px;">G</td><td style="width: 20px;">F</td><td style="width: 20px;">H</td><td style="width: 20px;">B</td><td style="width: 20px;">C</td><td style="width: 20px;">E</td><td style="width: 20px;">D</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">T3</td><td colspan="4" style="text-align: center;">T2</td> </tr> </table> </div> <p>2 本時の学習内容を知る。 ◎学習の順番を確認する。</p>	黒板								T1								A	G	F	H	B	C	E	D	T3				T2				<ul style="list-style-type: none"> ・児童全体の様子を確認し、当番にあいさつを促す。(T1) ・立つ姿勢を注意する。(T2、T3) ・学習の順番が分かるように黒板に提示する。(T1) ・黒板を注目するように、児童の姿勢や視線に気を配り、声がけをする。(T2、T3)
黒板																																		
T1																																		
A	G	F	H	B	C	E	D																											
T3				T2																														
深 め 広 げ る 28 分	<p>3 「教室はまちがうところだ」の音読をする。 ◎「教室はまちがうところだ」を音読する。 (全体で読む→順番に読む)</p> <p>4 文を作る学習をする。 ◎主語 (あたま)、述語 (あし) などを確認し、文づくりの順番を思い出す。 ◎本時の絵を見て、主語、述語などを考えて、カードに書く。 【座席】</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr><td colspan="4">T1</td></tr> </table> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td style="width: 20px;">F</td><td style="width: 20px;">H</td><td style="width: 20px;">B</td><td style="width: 20px;">D</td> </tr> <tr> <td style="width: 20px;">A</td><td style="width: 20px;">G</td><td style="width: 20px;">C</td><td style="width: 20px;">E</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">T3</td><td colspan="2" style="text-align: center;">T2</td> </tr> </table> </div> <p>◎カードを順序に並べ、読む。</p> <p>◎並べたカードを見ながら、学習プリントに文を書く。</p> <p>5 書いた文を発表する。 ◎書いた文を発表する。</p>	T1				F	H	B	D	A	G	C	E	T3		T2		<ul style="list-style-type: none"> ・「教室はまちがうところだ」の文は移動黒板に掲示しておき、音読の場面で移動する。(T1) ・読む順番を割り当て、題の後に続けて読み始めるように合図する。(T1) ・大きな声で音読するように促す。(T2、T3) ・Bには、教師の後に復唱するように促す。(T1) ・文づくりの順番が分かるように黒板に掲示する。(T1) ・黒板を注目するように、児童の姿勢や視線に気を配り、声がけをする。(T2、T3) ・絵を掲示し、主語 (あたま) について、性別や年齢を確認する。(T1) ・T1は、Bの文づくりを支援し、全体の進み具合に気を配りながら、学習の進まない児童を支援する。 ・T2は、C、D、Eを中心に支援する。 ・T3は、A、Fを中心に支援する。 ・D、Eには、マスのないプリントを用意する。(T2) ・学習意欲を喚起するように、「新しい表現」や「面白い表現」、「普段と違う表現」については、随時評価し、他の児童にも紹介する。(T1、T2、T3) ・意味の通る文になるように、ヒントを与えたり、カードを並べかえるように促したりする。(T1、T2、T3) ・カードの糊付けは、必要に応じて支援する。(T1、T2、T3) ・児童の実態に合わせて、代筆、なぞり、視写等、プリントへの書き込み方を配慮する。(T1、T2、T3) ・プリントは、発表を聞くことに集中できるように、足元に置か、教師が預かっておく。(T2、T3) ・発表する順番を決め、みんなに聞こえるような声で発表するように促す。(T1) 																
T1																																		
F	H	B	D																															
A	G	C	E																															
T3		T2																																

	<p>【座席】</p> <div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 20px; margin: 0 auto;"> <div style="text-align: center; margin: 0;"> 黒板 T1 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">G</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">F</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">H</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">C</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">E</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">D</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> T3 T2 </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表をしっかりと聞くように、声かけをする。(T2、T3) ・発表が終わったら、良い点を評価しながら、プリントを黒板に掲示する。(T1)
まとめ 確かめる 12分	6 学習のまとめをする。 ◎感想を発表する。 ◎次時の学習内容を確認する。 ◎終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手をした児童を、指名する。(T1) ・発表した児童の良かった点を、自信を持つことができるように称賛する。(T2、T3) ・本時の学習を振り返り、次時の学習について予告する。(T1) ・児童全体の様子を確認し、当番にあいさつを促す。(T1) ・立つ姿勢を注意する。(T2、T3)
次時の学習	[学習内容] ・「買い物」の絵を見て、文を作る。 [学習活動] ・「買い物」の絵を見て、考えた主語、述語などについて、それぞれ指定の色のカードに記入し、並べてプリントに視写する。 ・視写したプリントを読みながら、発表する。	

(5) 板書計画

おわり

はじめ

三. かんそうはつびよう

③ はつびようする

② プリントにかく

① 色カードにかく

二. 文づくり

一. おんどく

絵

あし
している。

からだ
にでを

あたま
はが

絵を見て文をつくらう